

【奨励賞】

「「ジョバンニの島」を鑑賞して」

天塩町立天塩中学校

2年 三橋 虹々南

「もっと、いつもの生活に感謝をしよう」

社会の授業でジョバンニの島を見終わって、私はそう思った。私の普段の生活がどれだけ幸せか、ジュンペイにこの生活を送らせてあげられれば、どれだけ笑顔があふれたか……。私は、そんなことを考えた。そして、ジュンペイがこの生活を送れなかった分も私が笑顔で明るく生きよう！と決心したビデオでもあった。

一年生の社会の授業で「北方領土はソ連に占領された」というのを知った時は「へえ～そうなんだ」という軽い気持ちで聞いていた。戦争で占領される・戦争中はそういうことが起こると何となく知っていたので、特に私の心に残ることはなかった。

そして、二年生になり北海道の授業の中で、北方領土についても改めて学習した。その際にジョバンニの島を見た。その内容は、私の想像をはるかに超えていた。大変で辛いことばかりだったんだと思った。お父さんが連れていかれたり、カンタが死んでしまうシーンを見て、心からそう思った。自分がもし、ジュンペイと同じところに生まれ、同じ時代で生活するとなったら、こんなに勇気をもった行動はできなかったと思う。

また、親子・兄弟の絆の深さにも感動した。ジュンペイやカンタの家族に対する愛が、様々な場面で伝わってきた。特に、お父さんがソ連軍に連れていかれる時、ジュンペイが泣きながら「お父さん！」と叫び、追っていた姿に涙があふれた。

しかし、一つだけ分からないことがあった。それは、ロシアの子供たちとジュンペイ達が仲良くなるシーン。突然、島に来て家を荒らされて、イヤなことばかりされてきたのに、なぜ仲良くできるのか……。私は不思議でたまらなかったし、私なら仲良くできなかったかもしれないと思った。だからこそ、ジュンペイがどうして仲良くしようと思えたのか、知りたいと思った。

ジョバンニの島を見て、戦争によってたくさんの命が奪われ、したいこともできなくなってしまうんだと感じた。辛いことばかりでわがままも言ってもらえないのに、今の自分は好きなものしか食べずにいたりして、どれだけ幸せに生きているかがよくわかった。カンタやジュンペイは、私より、年下なのに、決めたことは最後までやり遂げて、それを達成するために努力をし続けていて、本当に尊敬するし、すごいと思った。なので、これからは勉強も部活動も全力で取り組もうと思う。また、常に感謝の気持ちを伝え、言葉に出さなくても小さいことにも感謝する心を持ち続けたいと思う。ジョバンニの島を見たことで、これからどう生きるべきかを考えさせられる機会となった。